

平成26年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の 函館市の結果について

函館市教育委員会

1 調査の内容

(1) 調査の目的

子どもの体力が低下している状況に鑑み、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の対象学年

- ・小学校第5学年 全児童
- ・中学校第2学年 全生徒

(3) 調査の内容

① 児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査

[小学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、
20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
[中学校8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、
女子1000m）、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、
ハンドボール投げ

※ 持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施

イ 質問紙調査 生活習慣、食習慣、運動習慣に関する質問紙調査

② 学校に対する質問紙調査

学校における体育、保健体育の指導および特別活動等に関する質問紙調査

(4) 調査の方法

悉皆調査

(5) 調査実施期間

平成26年4月から7月末まで

(6) 調査学校数および児童生徒数（公立学校）

	参加小学校数	児童数	参加中学校数	生徒数
全国	20,447	1,076,795	9,947	1,000,415
北海道	1,100	43,465	639	41,758
函館市	45	1,925	27	1,890

(7)結果の概要

※ 調査結果の標記について

同程度 : T得点(全国平均を50とした場合の偏差値)の差が1未満
やや上回る, やや下回る : T得点の差が1~3
上回る, 下回る : T得点の差が3より大きい

① 体格について

〈身長〉

【小学校】全国平均をやや上回っている。
【中学校】全国平均をやや上回っている。

〈体重〉

【小学校】男子は全国平均を上回り, 女子は全国平均をやや上回っている。
【中学校】男子は全国平均を上回り, 女子は全国平均をやや上回っている。

② 実技に関する調査

〈握力〉

【小学校】男女とも, 全国平均を上回っている。
【中学校】男子は全国平均をやや上回り, 女子は同程度。

〈上体起こし〉

【小学校】男子は全国平均と同程度, 女子は全国平均をやや下回っている。
【中学校】男子は全国平均をやや下回り, 女子は全国平均を下回っている。

〈長座体前屈〉

【小学校】男女とも, 全国平均をやや上回っている。
【中学校】男女とも, 全国平均をやや下回っている。

〈反復横跳び〉

【小学校】男女とも, 全国平均をやや下回っている。
【中学校】男女とも, 全国平均を下回っている。

〈持久走〉(中学校のみ)

- ・男子は, 全国平均をやや下回っている。
- ・女子は, 全国平均を下回っている。

〈シャトルラン〉

【小学校】男女とも, 全国平均を下回っている。
【中学校】男子は全国平均をやや下回り, 女子は全国平均を下回っている。

〈50m走〉

- ・小・中学校, 男女とも, 全国平均をやや下回っている。

〈立ち幅跳び〉

【小学校】男女とも, 全国平均と同程度。
【中学校】男子は全国平均と同程度であり, 女子は全国平均をやや下回っている。

〈ボール投げ〉

【小学校】男女とも全国平均と同程度。
【中学校】男子は全国平均と同程度であり, 女子は全国平均をやや下回っている。

③ 質問紙調査

※ 調査結果の標記について

やや上回る, やや下回る : 全国平均との差が1～3ポイント

上回る, 下回る : 全国平均との差が3ポイントより大きい

ア 運動習慣等について

【小学校】

- ・「運動が好き」の割合は, 全国平均を上回っている。
- ・「運動部に所属している」割合は, 全国平均を下回っている。
- ・学校の体育の授業以外の1週間の総運動時間は, 全国平均をやや上回っている。
- ・「中学校で授業以外に自主的に運動したい」の割合は, 全国平均を上回っている。

【中学校】

- ・「運動が好き」の割合は, 全国平均をやや上回っている。
- ・学校の体育の授業以外の1週間の総運動時間は, 全国平均をやや下回っている。
- ・「運動部に所属している」割合は, 全国平均を下回っている。
- ・「中学校卒業後, 自主的に運動したい」と回答している男子の割合は, 全国平均を上回っており, 女子は全国平均をやや下回っている。

イ 体育の授業について

【小学校】

- ・「体育の授業は楽しい」の割合は, 男子は全国平均をやや上回り, 女子は全国平均を上回っている。
- ・「体づくり運動」, 「器械体操」, 「走・跳の運動」, 「浮く・泳ぐ運動」, 「ゲーム」, 「表現運動」6種目のうち, 男子は5種目, 女子は3種目で「楽しかった」と回答した児童の割合が, 全国平均を上回っている。
- ・「授業で学んだことを運動するときに使おうと思う」の割合は, 全国平均をやや下回っている。

【中学校】

- ・「保健体育の授業は楽しい」の割合は, 男子は全国平均を上回り, 女子は全国平均をやや上回っている。
- ・「体づくり運動」, 「器械体操」, 「陸上競技」, 「水泳」, 「球技」, 「武道」, 「ダンス」, 「体育理論」8種目のうち, 男子は3種目, 女子は1種目で「楽しかった」と回答した生徒の割合が, 全国平均を上回っている。
- ・「授業で学んだことを運動するときに使おうと思う」と回答している男子の割合は, 全国平均をやや上回っており, 女子は全国平均をやや下回っている。

2 体力向上の取組について

【結果の考察】

体力合計点において、小学校は全国平均とほぼ同等、中学校は下回る結果となりました。

要因としては、全国平均と比較して、授業以外の運動やスポーツの時間が短いことのほか、運動部への所属割合が低いことなどが考えられます。

また、運動が好き、運動が得意、授業が楽しいと回答している児童生徒は、体力合計点が高い傾向が見られます。

このようなことから、授業が楽しいと感じることで、運動に対する興味・関心や知識・技能を習得しようとする意欲が高まり、体力向上につながるものと考えられます。

また、家庭においても「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣の定着を図り、健やかな心身の成長の基礎を作ることが大切であり、その取組の充実のため、より一層の工夫が必要であると考えます。

【今後の対策】

- 平成26年度の「アプローチ」（函館市の学校教育推進の指針）において体力向上に関する取組を示しております。

2 体力向上に関する取組の徹底

- 子どもの実態を踏まえ、学校の方針や重点を明確化するとともに、子どもが日常的に運動に取り組むことができるよう、具体的な計画を立案・工夫し、家庭・地域と一丸となって体力の向上を図りましょう。
- 進んでスポーツに親しもうとする意欲を高めるため、楽しさを実感できる体育授業の充実や体育的行事との関連を工夫し、運動の日常化に向けた取組を充実させましょう。